

## 環境社会学ゼミ首都圏インカレへの参加・報告

現代社会学科 国際地域共創メジャー  
環境社会学ゼミナール  
担当教員：原口弥生

首都圏の大学で「環境社会学」を学ぶ学生たちが集う「2022 年度(第 5 回)環境社会学首都圏インカレ卒論発表会」が、11 月 4 日に早稲田大学所沢キャンパスで開催され、茨城大学環境社会学ゼミからも 4 年生 6 名、3 年生 4 名、研究生 2 名の 11 名が参加してきました。

今回参加した大学は関東学院大学、筑波大学、都留文科大学、明治学院大学、早稲田大学(2研究室)、茨城大学の 6 大学、7 研究室の学生で、参加総数 50 名以上となりました。昨年度は、オンラインで開催され、茨城大学が担当校でしたが、今年度は 3 年ぶりに早稲田大学所沢キャンパスでの対面開催となり、4 年生は緊張した面持ちで卒業研究の中間報告に臨みました。

ゼミとして学生とともに県外に出るのも 3 年ぶりでしたが、他大学の教員や学生との研究交流は、おおいに刺激になったようです。参加した学生からの感想の一部を紹介します。

後援会より学部学生の往復の交通費に対してご支援を頂いております。心より感謝申し上げます。

### 【参加学生の感想】

- ・私はプレゼンをさせて頂いたのですが、事例の細かい背景などを省くことで混乱を招いたり、バイアスのかかった安直な考察をしていたということに学生や先生からのコメントを通じて気付かされました。是非今後の卒論に活かそうと思います。(4 年)
- ・卒論の中間発表の中で、特に印象に残っているのは、質疑応答の時間に他大学の学生、それから先生から、かなり鋭い質問・疑問が発表者に対して投げかけられていたということである。私が、来年この場で発表していることを想像しながら、今回のインカレに参加したのだが、正直、今からきちんと研究のことを考えていかなければいけないという気持ちをもつ良いきっかけになったと思う。(3 年)
- ・他大学の学生の論文発表を聞くという点だけでなく、違う分野の発表を聞くという点で興味深い体験ができた。環境と観光の分野で異なる事例に外来者への対応の違いや成功の是非で違いが現れていたことが特に印象に残った体験である。(研究生)

【全体でのガイダンス】



他大学性に交じり、報告予定の4年生はかなり緊張しています。

【終了後、帰路へつくバス停にて】

ようやくリラックスして、笑顔に…

